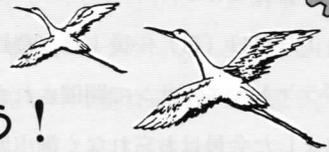




ENJOY ROTARY!



ロータリーを楽しもう!

会長 高橋良士 幹事 佐々木詰彦 クラブ奉仕 佐藤 衛 職業奉仕 忠鉢 徹 社会奉仕 斎藤 昭 国際奉仕 塚原初男 青少年奉仕 加藤 賢

出席報告:会員 88名 出席 57名 出席率 65.33% 前回出席率 80.26% 修正出席数 76名 確定出席率 88.16%

会長報告

高橋良士君

1. 訪台実行委員会

1月9日に開催しまして、姉妹クラブ台中港区ロータリークラブとの統盟式の訪台スケジュールが確定いたしました。

2月24日鶴岡出発、夕方、台北着、翌25日、台中での歓迎会、26日統盟式、27日観光、28日夕方羽田着の予定であります。

2. 臨時理事会

1月12日午後6時より開催いたしました。

① ライラ研修会経過報告

予算案についての検討を行いました。一昨年来、地区補助金がかなり削減されて、厳しい運営がいられると予想されております。ライラ研修会は地区レベルでのホストク

ラブ全員参加のプログラムとなりますので、全員登録とする事を理事会で決定いたしましたので御了解いただきたいと存じます。尚、登録料につきましては実行委員会です度検討の上、決定させていただきます。

② ガバナー公式訪問の例会場変更

先週の例会で御報告いたしました。村上ガバナー御病気療養中のため、志藤パストガバナーが、2月13日当クラブを公式訪問されます。当日はクラブ協議会を例会に引きついで行いますが、例会場を東京第一ホテル鶴岡に変更いたします。詳細につきましては追ってお知らせいたします。

③ 先週入会されました大館健さんの委員会所属はSAAと決定いたしましたので、SAAの皆様方、何卒よろしく御願ひ申し上げます。

ENJOY LIFE

初詣今昔

内山喜一

昭和21年の元旦、除夜の鐘を聞き乍ら、私は友人4名と天満宮-大神宮-春日神社-庄内神社-お城稲荷社と初詣の巡拝をし、その間、庄内神社で2~3名の参拝者に会ったのみでした。

その後、年毎に参拝者は増加して、特に昭和35年前後頃からテレビの急激な普及と共に、初詣の各地の様子が放映される様になり、参拝者

は更に増した様に思います。また当時、見雪橋に因んでみゆき通り商店街と選名し、庄内神社の先の石原宮司氏に諮って、神社の境内に年越そばと甘酒の出店を設けた事も懐かしい思い出となりました。以来40余年の経過を思う時、近年の夜を徹しての人出には隔世の感を深くして居ります。今年も駆足で新年を迎えようとして居り、除夜の鐘をしみじみと思出すこの頃です。

エンジョイライフ

3. 新会員セミナー

1月21日(日)午後1時(登録開始)より、
 グランド・エルサンで開催されますので登録さ
 れました会員はお忘れなく御出席いただきたい
 と存じます。

期 日 5/13
 受 付 10:00
 登録料 ￥12,000

◎ 例会変更

鶴岡東RC 1/24(水)新会員セミナーのため

期 日 1/21(日)

点 鐘 14:00

余 目RC 1/24(水)新年会のため

場 所 商工会館

点 鐘 18:30

登録料 ￥3,000

1/31(水)公式訪問のため

期 日 1/30(火)

点 鐘 12:15

登録料 ￥1,200

立 川RC 1/18(木)新年会のため

場 所 庄内ドライブイン

点 鐘 18:00

登録料 ￥5,000

幹 事 報 告

佐々木 喆彦 君

◎ 来 信 ・ 通 知

① 1/12 米山奨学会から、下半期の普通寄
 付のお願い

② 1/13 ロータリーの友事務局から、短歌
 欄に投稿のお願い

③ 1/16 東京RCから 会報到着

④ 1/16 ガハナー事務局から ライラ活動
 費・補助金送金通知
 ￥500,000

⑤ 1/11 20周年記念式典仮登録のお願い
 温海RC 2/10まで

会 員 ス ピ ー チ

／／ 年 男 ス ピ ー チ ／／

津田 晋介 君・毛 呂 健士 君・佐々木 喆彦 君・鈴木 肇 君・三 浦 恒 祺 君



津田 晋介 君

皆さんは「馬」という
 と何を思い出しますか。
 私は天皇陛下の観兵式の
 模様を思い出します。1
 月9日の新聞紙上にも大
 元帥陛下が馬に乗っているお姿が掲載されます。
 この馬の名前は「しらゆき号」といい、陛下が激
 然と馬に乗って第一師団の行進をおみつめになる。

私も実にいいながめだと思っていました。

そんな折、ある人からこんな話を聞きました。
 行進する兵隊は歩兵、騎兵、戦車兵とある訳です
 が、戦車は何百もの部品が一体となって動くもの。
 ひとつでも壊れるとエンコです。もし万一そのよ
 うなことがあれば、連隊長は切腹しなければならない。
 これは日本陸軍の習慣であったようです。

陛下の馬は、純粋なアラブで、非常に敏感です。
 敏感ということは、物事に驚く。驚くと走り出す。

天皇陛下は乗馬はお上手ですが、驚いて走り出した馬から落ちてしまわないとも限らない。観兵式には外国の要人もおり、そんなことにでもなれば日本の恥であります。また馬の糞尿も見苦しい。そこで馬の係は1ヶ月程前からみっちり運動をさせる。しかしやり過ぎてはいけない。当日疲れた状態にしておき、多少のことでは動かたくないような具合にしておく。もし調整がうまくいかずに走り出したら係も切腹しなければならなくなる。したがって観兵式を演出する係の者はハラハラしているようです。物事は表面だけがめていたのではわからないというこを感じました。

ところで白い馬を何というか知っていますか。葦毛といいます。馬の種類は5つだけです。青毛(黒い毛の馬)、鹿毛(茶色の濃いもの、たてがみ・尾・四肢の下部は黒)、栗毛(うす茶、黄色といってもよい)黒鹿毛(黒味がかっているもの)また馬のお尻に黒い斑点のあるのが連銭模様といって栄養がよい馬の証拠です。ただし栄養がよくても出ない馬もあります。

これから本題に入ろうと思いましたが時間がないうので終わります。



毛呂健士君

新年おめでとうございます。

11月に還暦を迎える訳ですが、私の職業には、健康である限り停年とゆうものがありませんので、まだまだ馬車馬のように働かなければなりません。同期の友人が退職して、ハワイにゴルフに出かける話等を聞くと羨ましく思ったりもします。

まあ、還暦といっても自分の一生の内の一年に過ぎない訳ですが、一つの句切りとして受けとめこれからは楽しい年を重ねられたらと思う次第です。

さて、年男ということで馬にちなんだ漢文の一節を……

(驥は其の力を称せず その徳を称するなり)

良馬はむろん力もすぐれているが、良馬が良馬としてとなえられるのは、むしろ、よく育てられたその馬の徳のためである。

人間には、才能や手腕が必要である。然し、根本的に備えていなければならないのは、徳であるという訳ですが、駄馬である私には徳を備えるのは、まだまだのようです。

今年は皆様にとって飛躍の年であることを祈念いたしまして、終わりと致します。



佐々木 喆彦 君

ここに一つのお伽話がある。

釈迦は、沢山の弟子をもって仏の道を説いたが、その慈悲心は人間だけでなく、生きとし生けるもの全てに向けられていた。その徳をしたって釈迦入寂の時は、悲しみの余り傍らの四本の木は緑変じて白色となり、横臥した釈迦の周囲にありとあらゆる生きものが嘆き悲しんで集まったという。

その釈迦の生前、生きものたちは各々に釈迦に仕えることを願い、時にはそのために争うことさえあったという。

釈迦はそれを制し、山の麓にある一本の木を指差して、あれを回って早くここに戻ったものから、

順次仕えるようにと説いた。その順序を「ね・うし・とら・う・たつ……」という。不思議なことにこれが、今の十二支となっている。

俗に、世間一般では「ね、うし」には仏事を行わないことが多い。インドではヒンズー教が信仰されている。その象徴である牛は人より大事にされている。

そのインドの事であるから、勿論競争で一番になるのは「うし」である。しかし、それ故に慢り高ぶっていた牛は、ゴール手前で己れの力を誇示するかのようになり、他を侮る態度を示した。その時世智に長けた鼠が、まともに戦っては到底叶わぬと、ひそかに牛の尻尾に掴まっていたのが、しめたとばかりゴールに入り、「それ見たことか、オレが一番だ……」。そして三番目は「とら」であった。「とら」もインドではその昔は大きな脅威であった。

それを見た釈迦は、「うし」のおごりをいましめ、「ねずみ」の狡意をたしなめ、所によっては「とら」も加えて、奉仕の順序を決めたという。これが、釈迦の意思であると、仏事をさける日とした。

十二支は中国の殷の時代に十二カ月を表す記号として用いられたが、はじめは子^し丑^{ちゆう}寅^{いん}卯^{ぼう}辰^{しん}巳^み午^ご未^び申^{しん}酉^{ゆう}戌^{じゅう}亥^{がい}と読んだ。これを後にそれぞれに覚えやすい動物の名があてられた。十二種類の動物の中でも、人間の生活に密着して歴史の発展に大きく貢献したという点では、馬は筆頭であると思われる。

先に述べた「お伽話」を持ちだすまでもなく、十二支から「子丑寅」を除けば「うま」は筆頭である。

還暦とは一巡りして元に戻ると言うことでもあ

る。即ち又新たな第一歩が始まると言うことである。零才からの出直しとまでは行かなくても、これからの人生を第二の青春と考えることにしたいと思っている。誰が言った言葉かさだかではないが、「青春とは、人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意思、燃ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春というのだ。歳を重ねただけで人は老いない。理想を失うときに初めて老いがくる。

人は、信念と共に 若く、疑惑と共に老ゆる。

人は、自信と共に 若く、恐怖と共に老ゆる。

希望あるかぎり 若く、

失望と共に老い朽ちる。」



鈴木 肇 君

私も馬年生まれであります。

馬年生まれは若い時、むこう見ずのあばれ馬であったかもしれません。

それが年を重ねる毎に、だんだんと調教されて一人前の馬になってくる。

私の故郷の八幡神社にも絵馬額が奉納されて居る。いつ頃奉納されたかわからないが、相当に古いものようだ、2人の人が一匹の丸々と太った馬を、たづなをもって押さえ込む様なスタイルだ。

或る本にこんな記事が書いてありました。紹介致します。観音堂の白馬の絵馬から夜な夜な白馬が抜け出しては、田畑を荒らすと云う評判が広がってしまった。これには住職もだまっておれず、檀家の人々と相談して、絵馬の白馬の前足の一本を切ってしまうと、とび出す事もないだろうと云う

事で、住職も同意して、馬に因果を含めて前足の一本を切り落としてしまった。不思議にもそれ以後田畑荒らしの噂は消えた。しかし観音堂の白馬の絵馬は田畑荒しをしたので、和尚さんに罰せられ足を切られてしまったと話が近郊に広まった。そしてたいした絵馬だと、その絵馬を見物に来る人が多くなり、その絵馬の白馬が田畑荒しをして和尚さんに叱られたと信じている伝説は今でも生きているし、又今でもその絵馬は足を切られて大切に保存されているそうです。

(写真もありました)



三浦恒祺君

今年の正月は、暮れの二日間の休日とつながり、五連休となり極めてゆとりのある年末年始を過ごすことができた。それに

加え昨年中父が亡くなったことから、正月行事は謹み、事静かな内容となった。11月中旬に早めに喪中のご挨拶状を出状、従って年賀状は準備不要と相成った。

年賀状の出状は前年度は450通位であろうか、年々少しずつ増えて作成に苦労が伴う。最近の絵柄は「干支の動物」を続けている。昔は版画か、或は一枚一枚描いたこともあったが、枚数が増えるに連れ手書きは限界に達し、昭和54年からは「プリントゴッコ」なる印刷器で4～5色を配色しての一版刷りか、墨一色でプリントした後に着色したりしているのが、それでも宛名書きをいれると、完了におおかた一週間以上の日数を要する。いつだったか横着して全部を活字印刷して手数を省いたことがあったが、ある方からご不満の声を

聞き、以来手数は掛かるが絵にすることにしている。その方は有り難いことに、アルバムにコレクションして下さって、私の描いた「干支」の全部を揃えるのが楽しみにしておられることをお聞きし感激した。たいして価値あるものでも無いのに、私の年賀状を一人でも楽しみに待たれている方がおられるとすれば、これからも頑張っ続けていなければならないと思っている。

私の年賀状のコレクションは少々自慢できるものである。コレクションは昭和35年から始まった。手書きを主体にしてこれと思われる年賀状をアルバムに保存し11冊にもなった。そんなこともあり私も人一倍楽しみに待っている一人でもある。

コレクションの中に、痛ましいことに既に故人になられた方が随分おられる。遺作と言えば大袈裟であるが貴重な作品である。どれもが真筆で私のアルバムに永久に保存されるのである。毎年正月には新しい年賀状を整理しながら、前のコレクションも同時に眺めて、あれこれと思い出にふけるのもお正月の楽しい一時でもある。

今年は私にとり貴重な馬年である。当然のことながら年賀状の絵柄は「馬」で張り切って取り組む筈であったが、また一方30年近くも切り目なく続いた私のコレクションも、残念なことに空白の年となり寂しい限りだ。

● ご 挨拶

鶴岡青年会議所次期会長 菅原英介氏



本年4月、全国城下町シンポジウムが鶴岡市で開催されることになりました。松本市から始まったこのシンポジウム、

昨年は四国の高松で行われ、鶴岡市は第9回目と
いうこととなります。

これは、ロータリーの皆様はじめ市民のご協力
がなければ成功致しませんので、ご協力の程よろ
しくお願い申し上げます。

また、当青年会議所へのご指導ご鞭撻もよろし
くお願い致します。本日はこのようにご紹介させ
て頂きましてありがとうございました。

委員会報告

ロータリー財団委員会

新穂 光一郎 君

253地区R I 財団奨学生、当クラブ推薦の泉川
由紀さんが、米国ウィスコンシン大学マジソン校
のスペシャル・スチューデントとして入学が許可
されました。

職業奉仕委員会

忠 鉢 徹 君

来月の第2例会は大川君の東京第一ホテル鶴岡
の職場訪問を予定しております。連休の後ですの
でお忘れのないようお願い致します。

スマイル

秋田昭和飯田川RC

淡路 徹君 私は昭和24年の牛年生まれでお
菓子の材料販売をやっておりま
す。酒田のお菓子屋さんに随分
とお世話になっております。よ
ろしくお願い致します。

斎藤庄治君 先日の13日に前理事長、風間富
治郎氏の金庫葬に悪天候の中、

多数の会員のご出席を頂きあり
がとうございました。

松永輝夫君 長らく単身赴任をしております
が、正月に妻と娘がこちらに参
りました。お蔭様で寛明堂さん
で銀婚式の写真を撮ってもらえ
ましたので

藤川享胤君 アーレン・マッキーが11日東京
に着き、12日食事をして最後に
何をしたいと聞いたら六本木の
ディスコに行きたいといいまし
た。時間を12時までということ
にして付き合いました。又、アー
レンの送別会の写真ができてお
ります。

高橋 登君 会社の新年会のボーリング大会
で丹下さんが準優勝致しました。
又、藤川さんから「やる気を起
こさせる」という講演をして頂
きましたので

丹下誠四郎君 ただ今ご紹介にありました通り
ボーリングで準優勝させて頂き
ました。去年から上昇ムードで
うれしく思っています。

ビジター

淡路 徹君 (秋田昭和飯田川RC)

滝 禅源君 (立川RC)

阿部 興二君 (鶴岡東RC)

30日(火)のプログラム予定

鱈汁例会